

## 第309回 日本体育大学長距離競技会

### 【出場結果】

実施日 : 11月11日(土) 10000m 11月12日(日) 5000m

会場 : 日本体育大学健志台陸上競技場

出場者 : 加藤 平 親崎 達朗 関口 大樹 坪井 響己 小野 修平

### 出場種目・出場者・リザルト

氏名	関口	親崎	坪井	加藤	小野	坪井
種目	10000m	10000m	10000m	10000m	5000m	5000m
組	4組目	6組目	6組目	7組目	22組目	23組目
タイム	30'22"84 (シーズンベスト)	29'27"79 (シーズンベスト)	29'24"50 (シーズンベスト)	28'42"74 (新電元記録 &自己ベスト)	14'41"30	14'15"80 (シーズンベスト)
順位	28/37	21/31	16/31	11/31	29/31	12/28

### 【レポート】

東日本実業団駅伝が終わり一週間が経ちましたが、今後の予定としては、選手たちは年末まで各地で開催されるトラックレース、ロードレース、マラソンの大会において、シーズンベストや自己ベストの更新を目指して積極的にレースへの出場を予定しております。

11月11～12日に開催された日本体育大学長距離競技会には、5名の選手が出場しました。

初日に行われた10000m4組目には関口が出場、入社後ベストとなる29分50秒切りを目標にレースへ臨みました。

レース展開は、5000mを15分5秒台で通過し後半のペースアップ次第では十分に目標達成が可能と思われる中、8000m過ぎに先頭集団から離れると、気持ちが切れてしまったのか、大幅にペースダウンして30分22秒台でのゴールとなり、駅伝では好走を見せていただけに悔しい結果となりましたが、次戦での巻き返しに期待したいと思います。



終盤の落ち込みで目標には届かず、課題が残った関口

続いて 10000m 6 組目には親崎と坪井が出場しました。

序盤は先頭集団が想定よりスローペースとなったため、坪井が積極的に集団を引っ張る勢いのある走りを見せ、5000m を 14 分 40 秒台で通過すると、集団のペースが一気に上がり、坪井と親崎は粘りを見せますが、先頭集団から遅れて第 3 集団でレースを進めました。

最後は坪井がスパートを見せて 29 分 24 秒台、親崎が 29 分 27 秒台でゴールして、2 名ともシーズンベストをマークしました。

特に親崎はシーズン前半から苦しいレースが多かっただけに、復調の兆しを見せる収穫のあるレースとなりました。



積極的に集団を引っ張る坪井



駅伝での好走に続き、復調の兆しを見せた親崎

最終組となった 10000m7 組目には加藤が出場しました。

12月に福岡国際マラソンを控える中でのレースとなりましたが、マラソン前に「28分台」を必ず出すといった強い覚悟を持ってレースに臨みました。



集中した表情でスタートを待つ加藤

序盤から1周 69~70秒の安定したペースでレースは進み、5000mを14分29秒台で通過しましたが、加藤はリラックスした表情で集団の流れに乗り、好記録に期待が高まりました。

6000m過ぎからペースが上がり、集団が崩れ始めましたが、加藤は集団にしっかりと食らいつき、8000mを通過した時点で28分台がほぼ確実な走り、レースは終盤へと進みました。



28分台を目標にリズムよくピッチを刻む加藤

8000m 以降も加藤の勢いは止まらず、ラストスパートも冴えて 28 分 42 秒台でのゴールとなり、自己ベストを更新するとともに、45 年間破られなかった OB の田嶋健司さんの持つ新電元記録の更新を達成しました。

今年 30 歳となり競技者としても円熟期を迎えた加藤が、45 年間止まっていた時間を再び動かす快走を披露し、チームとしても非常に価値のあるレースとなりました。



見事に新電元記録を更新した加藤。本当におめでとう！！

翌日に行われた 5000m には坪井と小野がレースに出場しました。

5000m22 組に出場した小野は、駅伝では悔しさが残る走りとなりましたが、練習もしっかり積んでいたため、14 分 15 秒を目標にしてレースに臨みました。

序盤から 1 周 68 秒を切る理想的なペースでレースは進み、小野は先頭集団でリズムに乗って走っていたものの、2000m 以降、集団から離れだすと単独走となり、そのままリズムを取り戻せず 14 分 41 秒台でのゴールし、悔しい結果となりましたが、この悔しさを自身の成長に繋げられる選手であり、次戦での活躍に期待をしたいと思います。



苦しい走りの中、必死に前を追う小野

続いて 5000m23 組目には、2 日連続のレースに臨んだ坪井が出場しました。

昨日のレースでの疲労が残るため、序盤から中盤は集団の最後尾でレースを進め、3000m を 8 分 35 秒台で通過しましたが、表情には余裕が感じられ、終盤のスパート争いにもしっかりと対応し、14 分 15 秒台のシーズンベストでゴールしました。

2 週間後に行われる八王子ロングディスタンスの 10000m に焦点を充てたレースでしたが、しっかりとまとめるレースが出来ており、次戦が楽しみな結果となりました。



2日連続のレースでも、しっかりとシーズンベストをマークする坪井

## 【総 評】

今回のレースでは、加藤が 10000m で長年破られなかった新電元記録を見事に更新したのを始め、シーズンベストを更新する選手が続出し、チームに活力を与える結果となりました。

ここから年末までレースが続きますが、体調管理を第一に日々の練習に取り組み、選手各自が目標を達成出来るよう、チーム一丸となって活動に取り組んで参ります。

今後とも皆様の温かいご声援をお願い致します。

以 上